

施策評価シート

評価実施年度：令和元年度

幹事部局	土木部
------	-----

施策の名称	施策 I - 6 - 3 空港・港湾の維持・整備
-------	--------------------------

施策の目的	物の流れや、人の流れを支える空港・港湾の機能の維持向上が図られるよう適正な管理を行うとともに、計画的な整備を進めます。
-------	---

施策の現状 に対する評価	<p>(空港の維持・整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空港の維持管理運営を適切に行うとともに、空港設備を更新しているが、滑走路等の基本施設や電源設備の老朽化が進行している。 ・ 出雲縁結び空港の駐車場の拡張や隠岐世界ジオパーク空港の混雑解消に取り組み、空港利用者の利便性向上が図られた。 ・ 国際チャーター便が就航した出雲縁結び空港については、国際便の利便性向上を図るには、ターミナルビル等が手狭になってきている。 <p>(港湾の維持・整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物流拠点港（松江港、河下港、江津港、浜田港）の岸壁や防波堤の整備により、港内静穏度などが向上したが、荒天時の港内静穏度が未だ低く、利用企業からは通年で安全に荷役作業を行える港湾とするよう要望が出ている。 ・ 港湾施設の老朽化への対応が必要な状況となっている。 ・ 国際定期コンテナ航路を有し、国際貿易港である浜田港は、コンテナ荷役の時間短縮と船舶の大型化に対応したコンテナ専用の大型クレーンを福井ふ頭へ設置し、機能強化を図った。 ・ 「浜田港拠点化形成研究会」により、集貨対策やクルーズ旅客誘致対策を行い、平成30年度はコンテナ貨物量は過去最高を更新し、外国籍クルーズ船が3回寄港した。
-----------------	---

今後の取組み の方向性	<p>(空港の維持・整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空港の施設・設備の長寿命化を図るとともに、空港基本施設（滑走路、誘導路）や灯火電源施設の老朽化の状況を把握し計画的に整備を行う。 ・ 出雲縁結び空港は、空港利用者の増加対応も含め、中期的なターミナルビル等の施設規模などの検討を空港周辺の状況に配慮しつつ進める。 ・ 隠岐世界ジオパーク空港は、ターミナルビルの拡張や乗降施設の整備を行う。 <p>(港湾の維持・整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 限られた予算を有効に活用して港湾整備を行うため、コストの縮減を図りつつ、優先順位を勘案して整備を進める。 ・ 国際貿易港である浜田港は、物流やクルーズ船寄港の拠点であり、防波堤、岸壁、臨港道路の整備を進め、機能を強化する。 ・ 「浜田港拠点化形成研究会」によるポートセールス（集貨対策、クルーズ客船誘致）に継続して取り組む。 ・ 西郷港小田地区の港湾計画を変更し、手狭となっている西郷港小田地区のふ頭用地を確保する。
----------------	--

施策に関連する指標の一覧

施策の名称	施策 I - 6 - 3 空港・港湾の維持・整備
-------	--------------------------

施策の目的達成に向けて取り組む事務事業において設定している主な成果参考指標

項番	施策の成果参考指標	指標名	平成27年度	平成30年度		令和元年度	単位
			実績値	目標値	実績値	目標値	
1	○	物流拠点港の岸壁の整備率	90.9	94.4	94.2	96.0	%
2	○	物流拠点港の防波堤の整備率	67.7	87.7	91.2	95.0	%
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

事務事業の一覧

施策の名称	I-6-3 空港・港湾の維持・整備
-------	-------------------

No.	事務事業の名称	目的 (誰(何)を対象として、どのような状態を目指すのか)	前年度 事業費 (千円)	今年度 事業費 (千円)	所管課名
1	港湾整備事業	貨物の運送や荷役が安全で効率的に行えるようにする。	3,148,477	2,339,797	港湾空港課
2	港湾計画事業	港湾機能の安全性、利便性に配慮し、効率的な港湾整備計画を立てる。	1,030	1,317	港湾空港課
3	境港管理事業	利用者ニーズを的確に把握し、港湾施設管理の向上を行い、取扱貨物量を伸張させる。	430,506	515,370	港湾空港課
4	港湾維持管理事業	港湾機能の安全性、利便性に配慮し、適切な港湾管理を行う。	522,802	823,822	港湾空港課
5	空港維持管理業務	空港の維持管理運営を適切に行う。	544,479	563,346	港湾空港課
6	空港機能保持事業	施設や設備が適切に更新・改良されることにより、空港施設の機能を良好に保持する。	305,023	1,015,601	港湾空港課
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅰ－6－3 空港・港湾の維持・整備
-------	------------------------

1 事務事業の概要

担当課	港湾空港課
-----	-------

名称	港湾整備事業				
目的	誰(何)を対象として	国内・海外への貨物の移出入を行うため港湾を利用する県内企業	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	貨物の運送や荷役が安全で効率的に行えるようにする。		3,148,477	2,339,797
			うち一般財源	247,278	277,259
今年度の取組内容	物流拠点となる県管理港湾において、浜田港の新北防波堤、河下港の沖防波堤など、岸壁や防波堤等の港湾施設整備を促進する。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと					

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	岸壁の整備率	目標値		93.6	93.6	94.4	96.0	%
			(取組目標値)						
	式・定義	岸壁の実施済み延長/岸壁の計画総延長	実績値	90.9	94.2	94.2	94.2		
			達成率	-	100.7	100.7	99.8	-	%
2	指標名	防波堤の整備率	目標値		75.6	80.4	87.7	95.0	%
			(取組目標値)						
	式・定義	防波堤の実施済み延長/防波堤の計画総延長	実績値	67.7	72.4	81.3	91.2		
			達成率	-	95.8	101.2	104.0	-	%
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など									
・防波堤整備は目標を概ね達成しているものの、岸壁に比べ整備率が十分でないため、荒天時の港内静穏度が低く、利用企業の安全な荷役に支障が出ている状況。									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 浜田港では、新北防波堤整備の進捗により、港内静穏度が向上してきている。 河下港では、沖防波堤整備の進捗により、港内静穏度が向上してきている。 江津港では、導流堤整備の進捗により、航路の安全性が向上してきている。 松江港では、老朽化した岸壁の改良工事が平成28年度に完成し、船舶の安全な係留環境が整った。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> 浜田港及び河下港においては、防波堤整備により港内静穏度が向上してきているが、荒天時には荷役作業が難しい場合もあり、通年での荷役作業が可能となるよう利用者から要望されている。 江津港においては、導流堤整備の進捗により、航路の安全性が向上してきているが、入港船舶が荒天時には横波を受け危険な状況となることから、早期の完成を要望されている。
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> 港湾施設整備には、多額の事業費を要するため、優先順位を付け整備を進めているが、水深の深い位置に設置する防波堤や、延長が長い導流堤の整備は特に事業費を要するため、なかなか進捗率が上がらない状況である。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 限られた予算の中で、コスト削減を図り、計画的な施設整備を行っていく必要がある。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策 I-6-3 空港・港湾の維持・整備
-------	-------------------------

1 事務事業の概要

担当課	港湾空港課
-----	-------

名称	港湾計画事業				
目的	誰(何)を対象として	港湾・海岸の施設利用者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	港湾機能の安全性、利便性に配慮し、効率的な港湾計画を立てる。		1,030	1,317
			うち一般財源		287
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 重要港湾の港湾施設について、浜田港の新北防波堤など整備を促進する。 平成28年度に策定した重要港湾（浜田港・三隅港・西郷港）の港湾BCPに従い、災害時における港湾機能の低下を最小限に抑制して港湾機能を早期回復できるよう訓練を実施する。 				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと					

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名	重要港湾（浜田港・三隅港・西郷港）の整備率	目標値	73.2	89.3	90.4	91.0	%
			(取組目標値)					
	式・定義	港湾整備の実施済延長/港湾整備の計画延長	実績値	62.7	79.3	92.0	96.4	
		達成率	-	108.4	103.1	106.7	-	%
2	指標名	重要港湾（浜田港・三隅港・西郷港）のBCP策定率	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	%
			(取組目標値)					
	式・定義	BCP策定数/重要港湾の全BCP策定数	実績値	0.0	100.0	100.0	100.0	
		達成率	-	100.0	100.0	100.0	-	%
<p>「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など</p> <ul style="list-style-type: none"> 浜田港においては、平成40年代前半を目標年次として、平成29年11月に港湾計画を改訂した。 また、港湾計画改訂にも関連するが、平成28年5月に「産・学・金・官」の64団体から構成する「浜田港拠点化形成研究会」を設立し、集荷対策、クルーズ客船誘致対策に取り組む組織づくりを行った。 								

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 「浜田港拠点化形成研究会」での集荷対策の継続的な活動などもあり、平成30年度のコンテナ貨物量は過去最高を更新した。 また、同じく「浜田港拠点化形成研究会」でのクルーズ旅客誘致対策の継続的な活動などもあり、平成30年度には、はじめて外国籍のクルーズ客船が3回寄港し、平成31年度も同じく3回寄港予定である。
課題分析	① 「目的」の達成のため（又は達成した状態を維持するため）に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> 浜田港で新規の貨物需要に対応できていない状況である。 西郷港で原木の移出量を調整せざるを得ない状況が続いている。
	② 上記①（課題）が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> 浜田港のふ頭用地は以前は想定していなかった石炭やPKS（ヤシ殻）、コンテナ等の新規貨物を取り扱うこととなったため、手狭な状況となっている。 隠岐の島町では原木出荷の潜在需要があるものの、移出拠点となる西郷港小田地区のふ頭用地が手狭な状況となっている。
	③ 上記②（原因）の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 浜田港のふ頭用地の拡大について、大規模な予算、長期に及ぶ整備期間、工事に伴う利用者との調整など、諸々の課題を解決する必要がある。 西郷港小田地区のふ頭用地拡大についても浜田港同様であるが、あわせて、港湾計画の変更を行う必要がある。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策I-6-3 空港・港湾の維持・整備
-------	------------------------

1 事務事業の概要

担当課	港湾空港課
-----	-------

名称	境港管理事業				
目的	誰(何)を対象として	境港の利用者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういふ状態を目指すのか	利用者ニーズを的確に把握し、港湾施設管理の向上を行い、取り扱い貨物量を伸張させる。		430,506	515,370
			うち一般財源	408,520	512,077
今年度の取組内容	中海・宍道湖・大山圏域の産業振興、観光振興を図るため、境港管理組合の事業に対し、共同管理者である鳥取県と連携し、施設整備、ポートセールス等に取り組む。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	境港への国内RORO船の定期航路化への取り組みについては、今年度4月から、敦賀港～博多港の航路が開設されたことから、新たに開設された航路を活用し、境港に途中寄港するルートを想定した試験輸送に取り組むこととした。				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	境港の年間取扱貨物量	目標値		450.0	450.0	450.0	450.0	万トン
		(取組目標値)							
	式・定義	年間取扱貨物量	実績値	373.8	374.8	366.3	368.3		
		達成率	—	83.3	81.4	81.9	—	%	
2	指標名		目標値						
		(取組目標値)							
	式・定義		実績値						
		達成率	—	—	—	—	—	%	
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など									
<ul style="list-style-type: none"> 取扱量は、前年同期に比べて微増(100.6%) 移入が減少する一方、輸出入・移出が増加 輸入では木材チップが減少した一方、化学薬品、原木が増加 移入では石油製品、セメントが減少 									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 年間取扱貨物量が前年同期に比べ微増した。 各港湾管理者の積極的な取り組みにより、敦賀港～博多港の航路が開設されたことから、日本海側の国内海上輸送網のミッシングリンクの解消につながった。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> RORO船については日本海側の新たな航路が開設されたが、山陰地方の港湾への寄港がないこと。
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> 航路の認知度と一定量の輸送ニーズが不足していること。 輸送機材及び体制が脆弱であること。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ロシア極東から中国沿岸部に至る北東アジア諸地域とのゲートウェイとして、また環日本海地域における西日本の交流拠点にふさわしい地理的特性を活かして、ポートセールスや港湾施設の機能向上に取り組む。 国内RORO船の試験輸送の取り組みは、新たな航路や埠頭整備に伴い今後も継続して実施する。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策 I-6-3 空港・港湾の維持・整備
-------	-------------------------

1 事務事業の概要

担当課	港湾空港課
-----	-------

名称	港湾維持管理事業				
目的	誰(何)を対象として	港湾・海岸の施設利用者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どうい状態を目指すのか	港湾機能の安全性、利便性に配慮し、適切な港湾管理を行う。		522,802	823,822
			うち一般財源	66,392	284,319
今年度の取組内容	・効率的な維持管理を行うべく島根県版のガイドラインの策定を行う。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと					

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	県管理港湾の年間取扱貨物量	目標値		660.0	660.0	660.0	660.0	万トン
		(取組目標値)							
	式・定義	年間取扱貨物量実績	実績値	644.1	681.1	707.3	655.0		
		達成率	-	103.2	107.2	99.3	-	%	
2	指標名	港湾施設の維持管理計画策定率	目標値		97.3	98.2	99.1	100.0	%
		(取組目標値)							
	式・定義	施設の維持管理計画策定数/維持管理計画策定対象の全施設数	実績値	96.3	97.3	98.1	99.0		
		達成率	-	100.0	99.9	99.9	-	%	
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など									
【年間取扱貨物量の減少理由について】 ・平成30年度は三隅発電所で定期点検があったことから火力発電所の稼働期間が短く、発電に使用する石炭の輸入が大きく減少した。(石炭の貨物量は前年比約70万トンの減)									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	・県管理港湾18港の全てにおいて、維持管理計画策定に取り組んでおり、港湾施設の計画策定は完了に近づいている。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	・維持管理計画に基づき、施設の重要度に応じ、3年もしくは5年毎に定期点検が必要であるが、対象施設全ての点検ができていない状況である。 ・今後、港湾施設の維持修繕、更新経費の増加が見込まれる。
	② 上記①(課題)が発生している原因	・点検費用の予算が圧倒的に不足している状況である。 ・老朽化が進み、耐用年数を迎える港湾施設が増加する。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・なるべく年度毎の点検費用を平準化するよう計画を見直し、予算確保に努める。 ・可能な限り港湾施設を長寿命化させるよう検討し、維持管理費用の縮減に取り組む。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策 I-6-3 空港・港湾の維持・整備
-------	-------------------------

1 事務事業の概要

担当課	港湾空港課
-----	-------

名称	空港維持管理業務				
目的	誰(何)を対象として	空港利用者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	空港の維持管理運営が適切になされている状態		544,479	563,346
			うち一般財源	129,391	135,850
今年度の取組内容	滑走路・航空灯火の点検修繕、保安(テロ対策)、消火救難への備え、除雪・除草作業、鳥防除などを行い、航空機の安全運航と搭乗者の安全・快適な空港利用が出来るように確実な空港管理を行う。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと					

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	定期航空機の就航率	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	%
			(取組目標値)						
	式・定義	(定期航空機の就航便数-原因が空港維持管理運営の不備による欠航便数) / 定期航空機の就航便数	実績値	100.0	100.0	100.0	100.0		
			達成率	-	100.0	100.0	100.0	-	
2	指標名		目標値						%
			(取組目標値)						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	
<p>「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など</p> <p>原因が空港維持管理運営の不備による欠航の無い状態を継続している。 施設の老朽化や保安体制の維持に伴い、維持管理に係る費用が増加していく。</p>									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	保安管理規程、関係法令に基づく維持管理レベルを維持している。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	施設、設備の老朽化に伴い維持管理費用が増加している。
	② 上記①(課題)が発生している原因	基本施設、電源施設の老朽化が進行している。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	保安管理規程に基づく、施設の巡回点検等を適切に実施し、施設の長寿命化を行う。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策I-6-3 空港・港湾の維持・整備
-------	------------------------

1 事務事業の概要

担当課	港湾空港課
-----	-------

名称	空港機能保持事業				
目的	誰(何)を対象として	空港利用者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どうい状態を目指すのか	施設や設備が適切に更新・改良されることにより、空港施設の機能が良好に保持されている状態。		305,023	1,015,601
			うち一般財源	230,063	916,361
今年度の取組内容	空港基本施設の更新、灯火電源設備の更新、灯火ケーブル等の更新、空港保安施設の改良などを行い、民間に供用する空港機能を保持する。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと					

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	空港施設の供用率	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	%
			(取組目標値)						
	式・定義	(空港供用日数-空港設備の不備による空港非供用日数) / 空港供用日数	実績値	100.0	100.0	100.0	100.0		
			達成率	-	100.0	100.0	100.0	-	
2	指標名		目標値						%
			(取組目標値)						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	
<p>「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など</p> <p>空港設備の不備による空港の非供用日は発生していない。 滑走路等の基本施設、航空灯火関係施設や保安施設は経年による老朽化が進んでいる。</p>									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	出雲空港の老朽化したエプロンを改良し、機能の回復が進んでいる。 出雲空港、石見空港における除雪車両について、計画的に車両の更新を行い、航空機の安全運航及び定時性の確保が図られている。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	老朽化が進む空港施設・設備等の更新・改良に多額の事業費が必要
	② 上記①(課題)が発生している原因	除雪・除草、消防車両等の各種車両の老朽化に伴う車両整備費の増。 滑走路等施設の更新・改良は、調査から事業完了まで数年の期間と多額の事業費を要する。 滑走路内に埋設されている灯火施設があるため、滑走路施設と滑走路内灯火施設の更新は同時に行う必要があり、単年度に多額の事業費を要する。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	各種車両について、H28年度に策定した更新計画に基づき、計画的な更新を行う。 基本施設及び灯火電源施設については調査を行い、老朽化の状況を把握した上で更新・改良を計画する。 調査結果から総事業費が1億円を超える大規模な更新・改良が必要であることが判明した場合、補助事業化に向けた基本設計等を行う。